

今回の会員SPOTは、吹田市で「(医)ロングウッド前田クリニック」を開業している前田和久(まえだ・かずひさ)先生を訪ねました。先生には、ご略歴や診療で心がけていること、食事療法やヨガなどの予防医療についてなど、お話をいただきました。インタビュアーは編集部です。

Spot 第84回



吹田市

前田 和久 先生

—開業に至るまでの先生のご略歴を教えてください。

平成元年に大阪大学医学部を卒業し、第二内科へ入局しました。その後、紀南総合病院で循環器内科を担当していました。救急では和歌山代表に選ばれました。それから3年後には大阪大学へ研究員として戻り、肥満に関係するホルモン・アディポネクチンの研究に没頭していました。ハーバード大学へ研究員として留学してからは、一貫してメタボリックシンドロームなどの肥満治療の研究に努めていました。

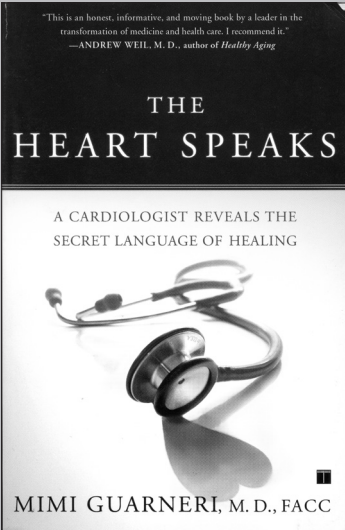
当院がある吹田市は、とても高い救急医療を誇り、医療が充実しています。この医療レベルの高い地域で、長年地域医療に貢献されてきた梶田知道先生の梶田内科を引き継ぐ形で「前田クリニック」として新たに開業しました。—診療を通して先生が心がけていることをお聞かせください。

開業する際に、アメリカの看護師からいただいた著書が印象に残っています。タイトルが「THE HEART SPEAKS」で意味は「聴診器で心音を聴きながら患者の声を聴け」です。その言葉は私の心に響きました。とても素晴らしい言葉で、自分の中でも大事にしていきたい事です。

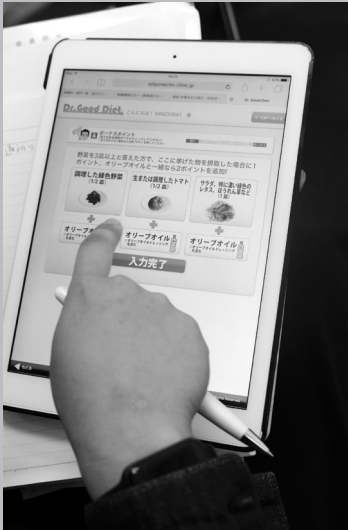
薬で血圧、コレステロールや糖尿病など、どれだけ完璧にコントロールし

THE HEART SPEAKS

聴診器で心音を聴きながら患者の声を聴く



THE HEART SPEAKS By Mimi Guarneri は、先生が大切にされている著書のひとつ



診察の待ち時間にアイパッドを使用して簡単にできる食事習慣の診断テスト

でも心臓の病気になる方はいまです。通常の医療に加えて、他の方法を取り入れて患者にベストな治療をする方がいいと思います。ヨガやアロマを治療の一貫として取り入れているのもそのためです。

—ヨガやアロマで具体的にどのような治療なんでしょうか。

「心のリハビリ」はとても難しいです。メンタルヘルスにおいて、薬以外でどのようにして患者を治療するかと考えるときに「マインドフルネス」を大事にしています。これは瞑想や腹式呼吸で深呼吸して気持ちを落ち着かせるということです。きっかけは、大学でPTSDの患者の治療にあたったことで、それから始めました。

ヨガ教室は日本ヨガ療法学会から療法師の先生に来て頂いて、月2回開催しており、毎回30人弱の患者が参加します。白衣高血圧の方が多く、下げするための良い方法は無いかと考え、始めました。自分の心をコントロールし

て落ち着かせるための一助になればと思っています。

他には運動教室も行っており、主に心筋梗塞や心不全を起した患者の心臓リハビリテーションの一環です。運動療法は点数が低いので中々難しいところではありますが、治療の切り口になればと考えています。

—先生にとって医療とはどんなものなのでしょうか。

いろんな患者がいます。それぞれの患者に対して医療というものは敷居が低いもので誰でも医療にかかることが出来なければならぬと思います。

何故、循環器内科から糖尿病の研究を経てリハビリテーションを行っているかというと、私は「全人的ケア」を意識しており、リハビリというのは「全人的な部分」を標榜できると思うからです。それが食事療法であったり、運動やヨガ療法であったり、薬だけでは達成できないものの治療で患者の回復へ繋げていければと思っています。

—本日はありがとうございました。